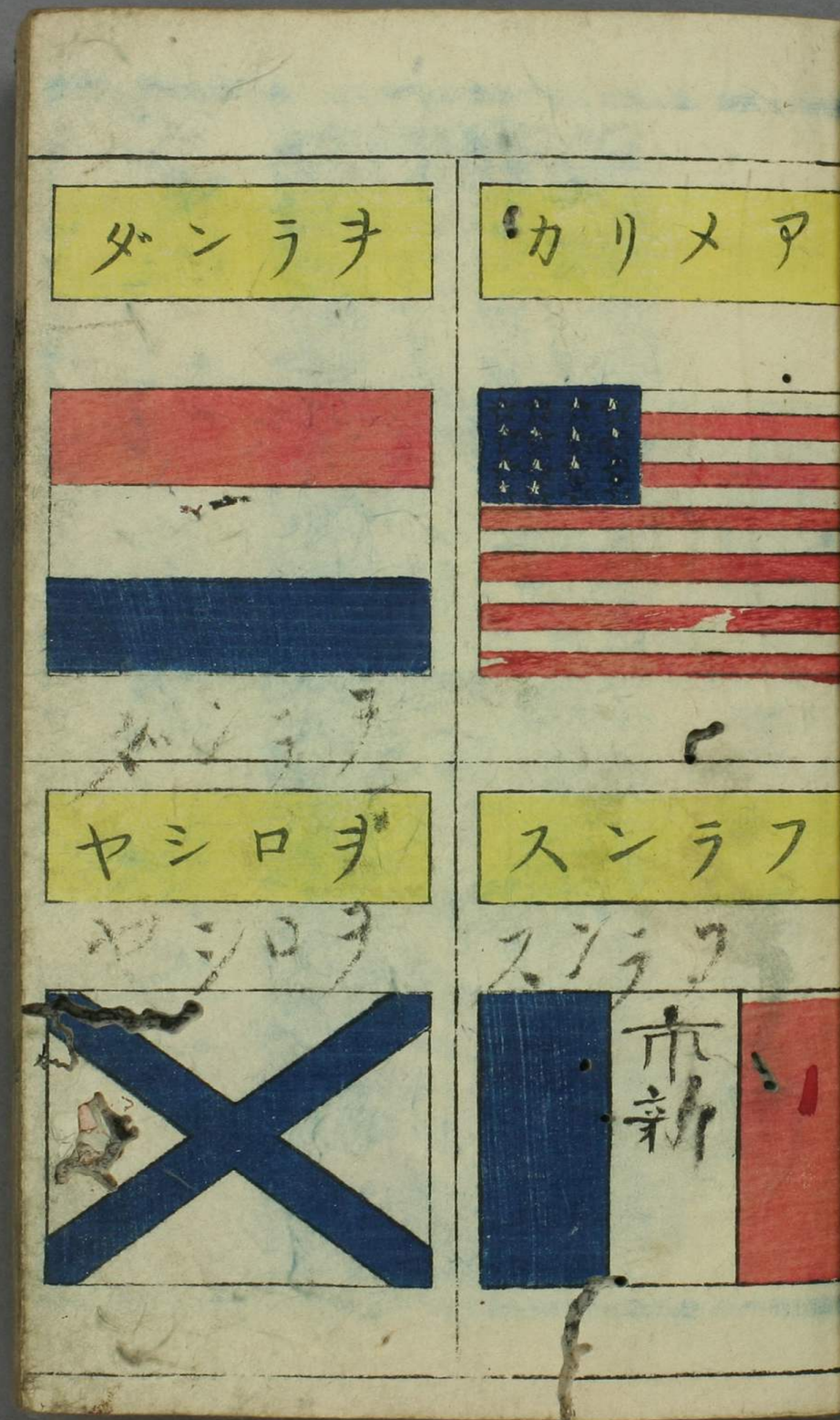
横濱書簡 全

洋学文庫
文庫8
C 442



義形多能波奈

横濱夢談

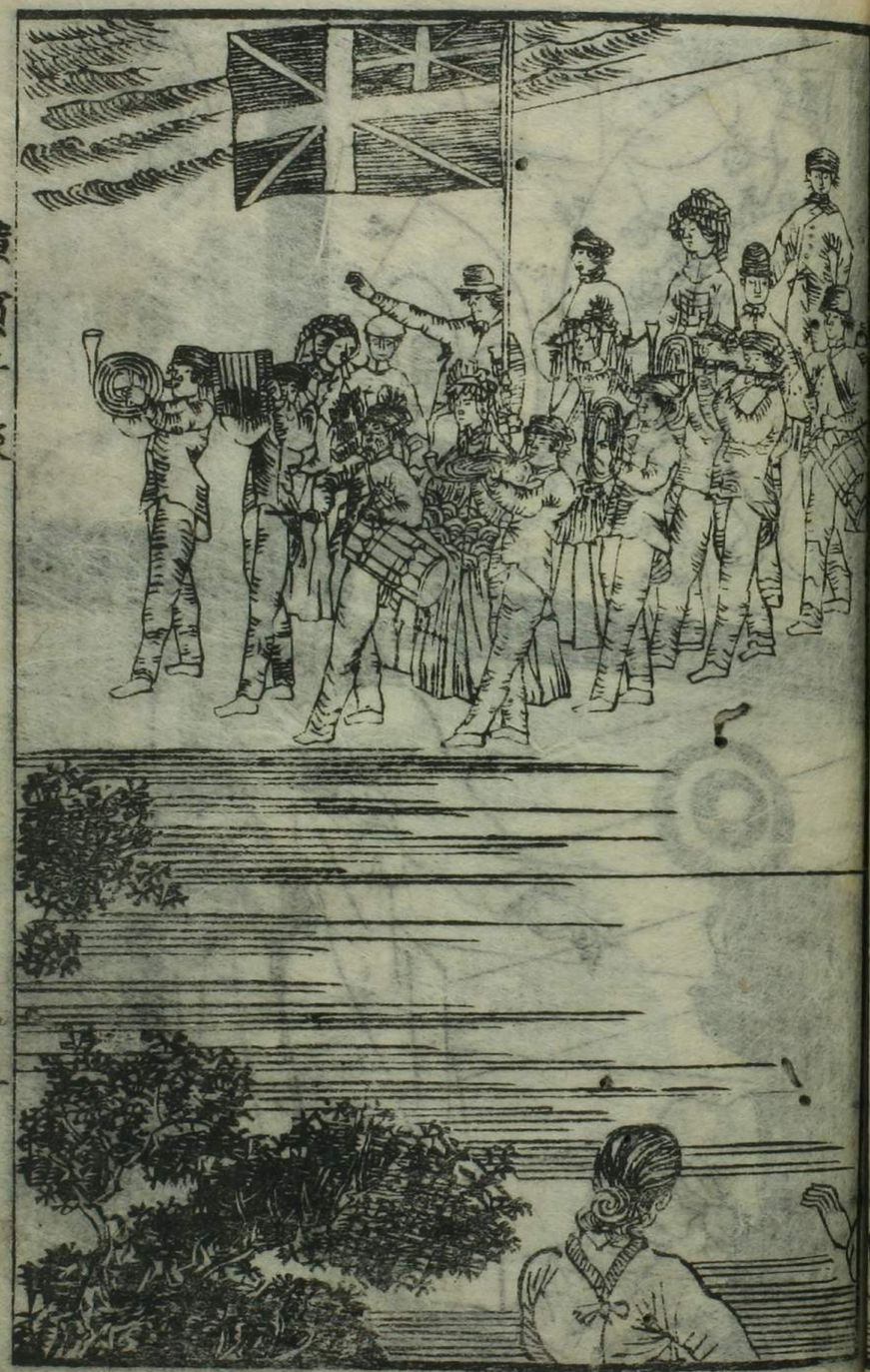
綿溝堂藏

41-7065

ポルトガル
亦反
フロイセン

イギリス
同上

横濱港繁榮之圖



ブンダフの休日ふ
異人男女集合遊行
して音曲を催し
あるひは鉄炮を
揃へて足並成
調練なり

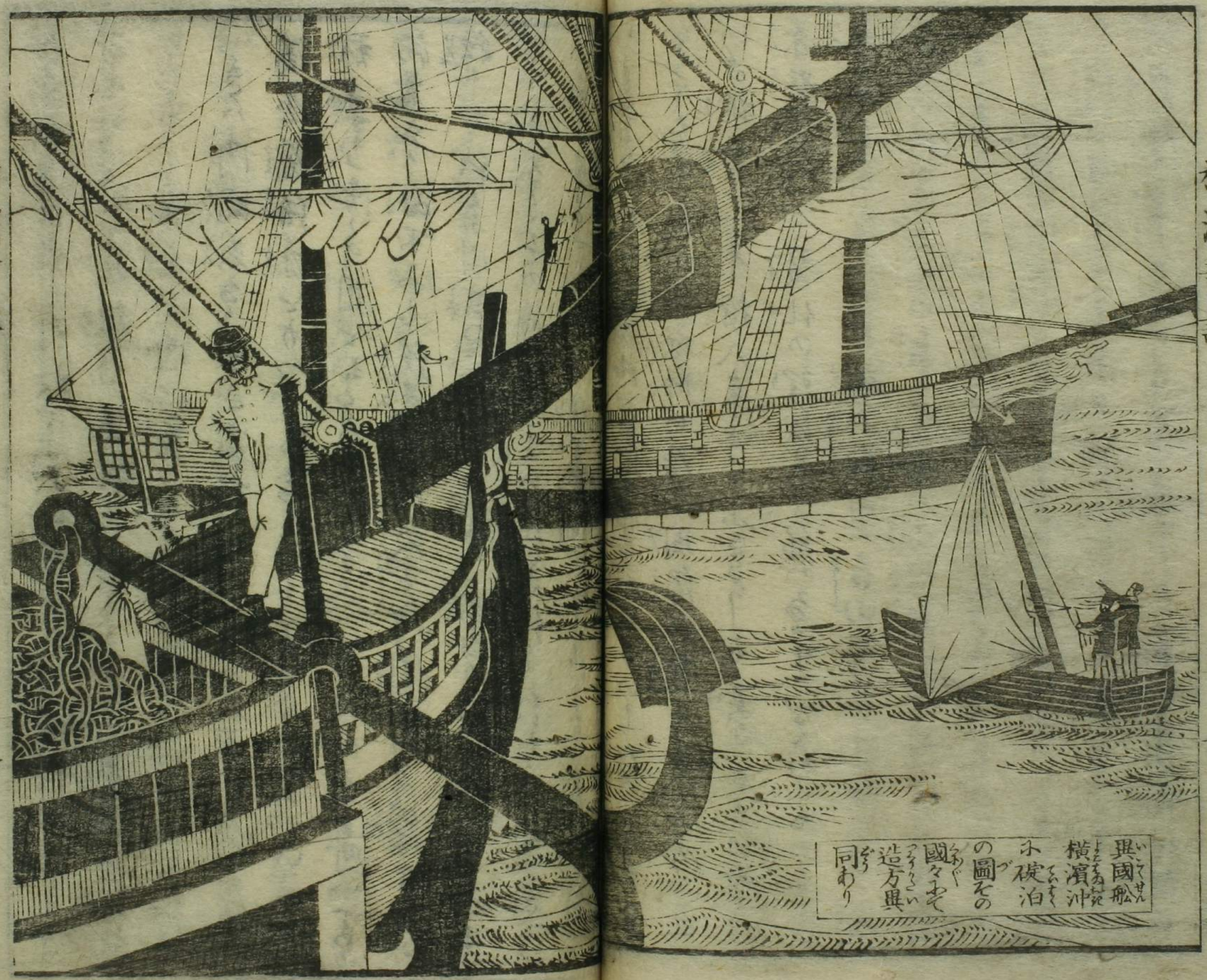
港崎町遊女屋の揚上小異人来り家作の精工娼妓の風姿麗艶なるを見て驚感せ小

皇國ふ為あらく　官許あり通商の義ハ貨易のふ為なくて
叶り双方ともふ庁費庁買ふて以ていづれも既全の通商なるを
おもの慶大なるを茶代来ゆて一日のうち一万商二万商あるひハ
又万商あるべく数にのうり買あり〻く其の言下限りあり〻もべてふ物
を渡し〻べ其日のうちふ代弘紙たるひ出ふらちあくるを弘紙
ふ入るもあるべきまさ莫大の洋紙と麻賊布あるべふうちとこて
丁種あるべい煙草のべべい肩ふうちの世間横ふ行るも
めべ〻弘洋紙の相場胡蝶〻くるもの〻ふ弘洋紙
〻世弘渡るべるも許多あり世〻の商賈〻ふ俗ふドル
為と唱へるべ国より招るべ品物ハ波戸場へつ〻ぐ

べるべ弘洋紙のべ〻ふ物ハ品物ハ到合通りの陸運上相納め
べる後商賈ふ為べ先我国の品物べるも陸〻べるの義ハ
国招なり外国より渡来べる品物ハ織物のたべひギヤマン
細工の器物業種の新べるの為ふ教べるれば器べ我国
より多べ〻商賈べ品物ハ半糸業業べるの石炭べる
為ふ教ふ入り拵べて価ふ為ふ渡べ商賈迎の品ハ変〻町会商
べる者陸渡のべ〻ふ為ふ銀円ハ拵べ〻なり国地の商人
商銀ハ出入の記ハ紙〻紙札と腰〻拵るなり元用のべるのハ
元入べるを許べる者の慶全なり所開港の記ふハ嘉永七寅
年亜墨利加国ふより使節と渡べて本使ペルリ副使アータムス

軍松九郎殿ゆく入洛し通高の願文となり之後度く入洛
し形上ゆるしより終ふ　御免許あり来年六月より通高
相婚り當洛ふ町ゆく市中の繁華いみじうなり　町割
奏聞のごくゆく御遷上京と京中まして京の方は美人
高級所のうえ町ゆくその町名京町通り五丁目まで海
岸通り南北仲通無天通毛因幡堀十町二丁目太田町は八丁目
まで海干町は無天社の南きてうり高社ふ安産　たてまつる
ところの無賊天は弘法大師の表作まして江の海あり無級天と
同京同祀なり　波傳の御神は六百年のむかふ御寂室なり
ませふ當社の御神はゆゆく今ふいうゆく御寂室なり

かゆゆきゆき神仏ゆく御寂室の庭遷りいたりゆや化変ゆ
ゆのゆきゆや波一位禄師の給ふ　因縁の熟きるところ室遷
りて桃葉之年　禄八年とゆゆも変ゆゆひゆゆれ
兼好法師が変化の理成ゆゆ結びゆりといはれもいゆく
ゆきゆき今云なりゆや備入松町
祇町は陸運上京の表芝居は小仲春り二丁目あり復者は
江戸表より芝者入ゆゆり芝かゆゆり春りて宝芝居なゆる間
なり　相撲は太田町六丁目金毘羅境内なりこゆも四雪
の裏形健なり　波戸場は西宝上京の前ゆり美人の
波戸場ゆ名戸ゆの表ゆ元町はゆり刺の御婚祖院の

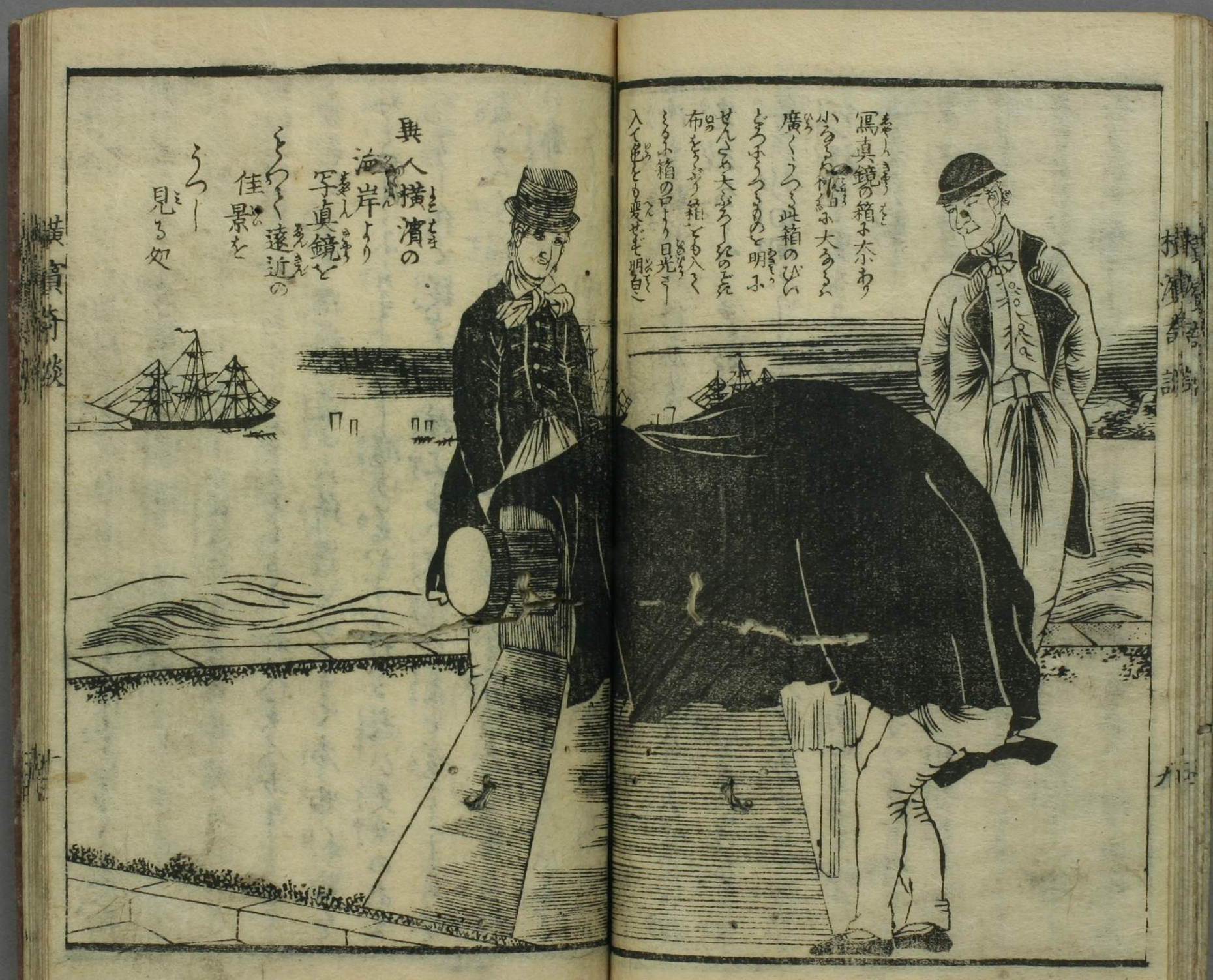

異國船
横濱沖
不碇泊
の圖その
國々にて
造方異
同あり

右くなり きべつく町数軍又町多也でも家数八凡三百
ゆもあるべき筈 僅又ケ年ゆも 海ざるゆかく繁花の様況
となりしる 全く御仁恵の賜きゆ作でもあゆぐ
べきゆ御國風なりまと家数ゆ対しては人民の多きしの
湯屋髪結床とめつくも志ゆ多朝より数ゆいる生
稼業なきゆの国とおどろくべし 浦賀ハ本町一丁めの
河岸なり 此所ゆも諸荷物陸改所関門なり 此所より出
船して 秋葉川宮の河岸とや 高く聳えり 松笠ハ三人ばく
半八文なり その海上 眺望の絶景 西面 富士と
西面 見えて 右ゆい 鉄父甲胴の山 陸しなり 左ゆい 箱根

矢倉山 迎ゆい 獅金童 沢 [illegible] 陽 [illegible] 加
納山 鍋山と 名ゆ 元 [illegible] 国 業ゆ見る 魚漁の活業ゆハ
名ゆ ゆ 秋葉川の 鯖 京 浦 活 ち 鯖焼の松 雲 魚の地 養
南ゆ 横須の 線 京 横須の 笑 松ハ 葉 笑 赤の 旗 とゆ び
ゆ 笑 人 鉄の 遠見ハ さ ゆ 我国 ゆ ゆ ゆ 亜国の
ハシントン 英 ロンドンの港へ いゆ ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ れる
高家 繁 留の ゆ ゆ 氏の ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ
見ハ ゆ ゆ 実ゆ 京 久ハ 一 ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ
ゆ ゆ ゆ 代ゆ ゆ ゆ 此 鯖 地 ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ
海道 往来の 盛 客 ゆ ゆ ゆ 一 賢 ゆ ゆ ゆ 旅 情 ゆ ゆ

玉のごし　如海横濱表ハ東この入口ふ法寺門をくぐり流
義の地に行くこと不行くに所有縁命なること番手なり武
家ばかりいとさまざまに他国の法民見物のごとくまりいとも
常力ハ交して おなくしび絶合 絶力なりともきびしく法禁
制なり法掛り 御役人 横方 方こ和ハ常力ーこるこの一人も
行くこと法よりこ得ざれば不許合るこるのこのごとー又横中
垂提灯 ちくこ 法禁 ちくこの法制禁なるこ有こ
商人とこてもを提ちんを持あるこなり見おい他国こ来
義あるごとー 佐陸地ハ西の出口 吉田ーー法寺門より野毛橋
ふいりたの者より陸国源の法 法禁 金沢道あり

もこ 法禁 元町とりこ 切通し 右のかこ
御 寺 行 橋の法屋 貴 たのこ 法 若道なり 右ふ出 役
宅 立 あるこ戸 新町 ともこれば石 法関門 あり 法 平
沼 橋 彩田 間ーより 東海道 神奈川の入口 出 るこのこ
行 行 寺 里 あり 港 海 松女町 ハ 市中 より 南の方 波戸 役
よりの 元 番ーー 夜 役 坂 元 坂 より 柳 こ 提 ものこと 借 吉
東道 ・ いよ 此 道 筋 の ちん 昌 あるこ 多 法 人 形町 番 より 浪 元
明 寺 町 ふも 茅 こ 左 右 の 屋 物 店 ハ 旅 宿 の 見 と やーあひ
茶 屋 の かこ 多 行 地 ハ 用 の 者 こ とこ ぐ こ 大門 に と 法 こ ふ 道 り
むこひの 稲 でこちん ハ 黄 の 先 こ ふ より 杉 こ 仲 の 町 乃

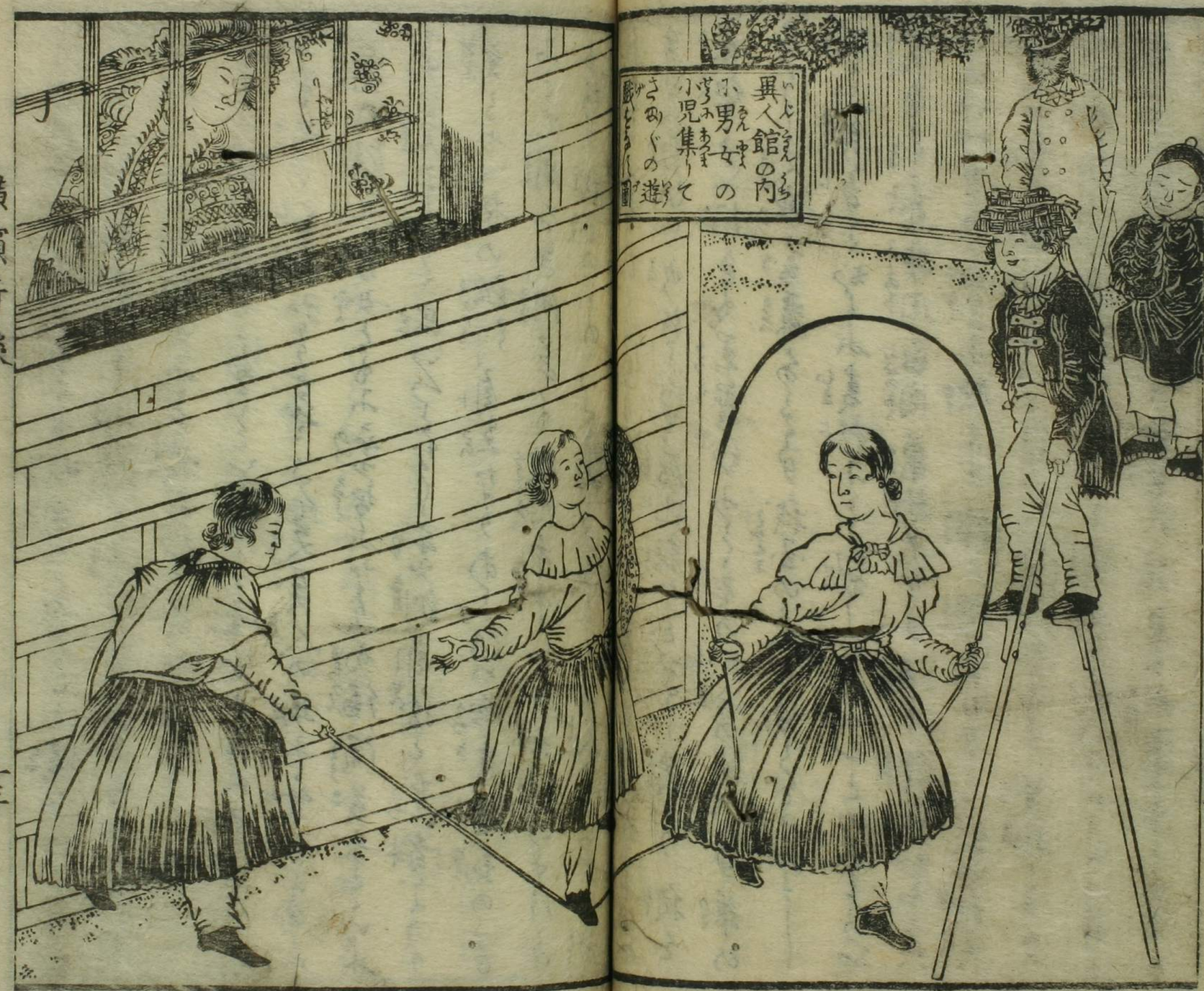

寫真鏡の箱は大小あり
廣くうつす此箱のびい
どろふくろものと明ふ
せんさい大ぶろしきの元
布をちぶり箱とも入く
るふ箱の口より日光さし
入て色をも愛せぬ明白
異人横濱の
海岸より
写真鏡と
遠近の
佳景を
うつし
見る図

樹木の繁くうそ蝟蛇ふ色紙めくそふまぐくに四季ありくの美景
繪ゝ写なり岩亀樹の家造ふ風気樹のごくあしてあくろ
孔雀異ふ鳥くしく舞用の姫蕊書用の儀頭とん用くく
の賜ひ用をおぐろうー素人ぞめきい和人美人おすじくろて
昼歩とものぞ蝟蛇の道中ハ絡羅とかぐりて唐物和物を
好くこのまくふ人ぐさ偽り名かぐりたる数ひ天女のあま
くぐりー称と銀ぐくる樹上ふハ澤沼の花と咲くくめ蛙
蛇ふハ沼の美と蕊ちくせりかくる金魚のあさ色こ紙
の廊ふもおさくおくるまじくそ思くるされびひくびは唐ふ
花ぐくるくのハ紙有唐天のの名ぐり美ふ家くゆくと名くるぐ

まくと美人唐蛇ふハ士官と高人とのりハ士官の名ハニコストル
コンシエル おくるひハ通辯官まくくハ和相相とありくく絡く
彼ふの旗幟とおーだてあり高級ふハ柱の旗なくれども
高用の看板らーき籠つのり巧づまくく屋敷の造り方ハ墨
ふハ瓦石と積こかくくも陸ふるハギヤマンふく張間毎の志紀
くのハふ墨ーきあくくハ十畳敷ふハ巧づまくも志枝幟ふ
く毛くくの樹相あり柱の美ーきくる美差と布ふくくる
おくくーふ向くいくれば一ト間毎ーく壁炭まくくハ石炭ふくと
沢山く記ー柱の煙りハ洞樋と いくく赤相ハ紙ハ墨ふくく完
をあけ柱の樋より洩せば天井墨ふくくもふくもふまぐくくハ

行てうれる三四月ばのめしー間毎に我国の雅賞のごとく
ギヤマン絵の器とかきつけ彩りその美麗なるもまた
面白ひなーー彩色いとをび妙麗よギヤマンの上覆紙
かつれば其の内のはるきる毛一筋ともみえぬやうなる
いづれも屋敷の門のうへにギヤマンあく製造なーーある
彩妙なるものきこの行り絵くに門の内にも白色に美しく
美ー眼光ーきこのごもあり扱美人彩書の形状ハすべ
胡ふまはばかり附ばふ用と光ーちぐふ入混ちるあり
その湯のぬるきこと水のごとし中ハ暑くもふ
絵なりおのもの行り姿見
ちらの姿見
ちらの

ちらの鏡ハ鏡と也ーシヤボン
ちらの角ひの紙ちうて薬化粧ちどいとー史より扱を
ちらの紙ちうて伊ちもちらの羅紗
おちこーー又所ちの菓ちるる我国のハへく彩ちるる なーー
次ちく鏡ちるる麦粉ちく製ーちるパンといふものと
食ちそこ牛肉豚肉菓物ちなり酒ちく種類ちわれ
どもいづれも毒ふ所ちも酒ちく酔ちるなーこれハ我国の
酒ちハ強り製ちよりいづれちんきちく菓物ちより
ちる酒ちのみ食ちれども酔ちるハいちく
食ちるハ初ちハ一度なり煙ちいづれも好みてーの写も


異人館の内
小男女の
小児集りて
さゐぐの遊戯

たるものあり一さてさてこれ我國のあるべきことと遠ひたるものなるべし我國のごく内へ入りて吸ときに国のまわる程なり被ら入ふのたりあく吸まむしのいなりあり〳〵嗅とたく
なりたるものあるべくあるべきとまけに悪気と上
生もなくこれ病なりこれさて又異人の馬に乗るるいい
小児の遊り男女ともに乗ふなり加藤源義ありていい
るに入りなく只いろとなりなく乗馬自生と達者よのり
覚るもく楽の強引自生なりあくひに西洋蓮動のこと
ふとて用あき附ものの鍛冶市中ともに行いるるる
もの繁盛のものいるものあり又異人のいるるる鍛

鍛屋紙もものの行りたるに家作と一ト写ふ鍛屋のごと
くふ造りく渡来のことの上陸の器たりたくあきことの
出たるごやく止宿もるこるもの弧富料一書ら洋紙
三枚我国の紙みて中食ハドルもる敷あり
枝木の言料なりこるちふ
世変りくたる中よりこ間だり中武間ちどの机の
ものあるものり見のふもこるる計するどふてこもくど
よ完あり所盤面ふ鉄すふるどふの玉紙あきこの玉紙
相こと鉄りく枝と砂く実ハ我国とおくのもとあり合
りう合その玉完ふ入るの決定みく傷とこるう入ぎふ

貫あるべし　おのゝ線の如きあるもの　実ふ如ぐ紐くづきの
一のあり　はびハ　我玉の　完一とやしんふ　似ようそのかさつ
よ　洋紙と　二百枚　五百枚　五百枚も　積重て　緒とする
あり　重　人の世ふ　指壺の　指びも　あれば　こもつの　名めしく
あらふものゝ　想ふく　間角くの　書簾　あるもハ　筆こ　こ
がく　まさ　波國　ふんバンダフといふ　ありけゾンといふ
洋紙の　天ありダフ　ふハ　袋日　ふくといふ　日のるる　我國の
七曜のゝ　日曜日　あり　八日　あるる　法國ハ　業用ハ
句　句　何　事　ともせ　せびして　たる　指びく　ふくもの　ふくハ
指びくの　徴　ふ　ゝ　ふ　ゝ　ふ　ゝ

崑崙層刺遠見鏡を
とつて諸所の景色を
見て多のしむ圖此國の
人その身に著る服の
美事なる殊好きて
頭に緋鹿子ちりめん
なる紙生紀服に筒袖
なるもの紫鹿の子
淺黄の中形どろろぶ
女へ縫針のてぶよ
妙を得たり

出りこうぼり丈より水揚車く積るもの有り元来のそこく
い花蕊といふもの紙粉を作りたきて湯を溜せば元湯乳の
いきるのひまく車出り出たるつぶ洗濯よ入る湯のたぎ
るもちろん蒸き釜のおごり出ふひとしそ此五丈を
蔵ぼせし西洋まもも四十年以来のるもなんいづれも
廣きの湯ゆきしびやうもの見る映じて生ぬき
ゆるぐ様いづれも二本にて一ツ湯ハ横巾二十も
負る所海よりく山の溜ぐるぐる港を出入する毎
大炮と雷く落つちるハ入津のうきい出るふく異船
行る法ひ出帆の出用ハ前途の法ひあり縄て伺しもの

強炮とうくく合図とて大山も崩るるの如くもの
ふく耳ものをぬるものハ強くもむづかり有船ハ蒸紙の人数
二三十人ばかりこれそれ有用亀甲の掃除ハよりてハ蒸気
ハ南蛮より南京の港へ四数十五六日ふ洋遠ハ
出早帆ハ強歩のいろ有りバッテイラといふハ紙五丈
小船ありまるハ木口紙もそれ紙ハ洞縫して
蒸造もこれ四隅ハ小よりく溜ぐるるあるど
まるこ人ありく上陸しく四艘之の廣場よりて綱縛もるる
ありこ人数元八百人位ハ人余もこれ俵つハ五丈七丈
まるこ於の一列ハ鉄格子人あるハ三格人袋ありり堅横自ちく

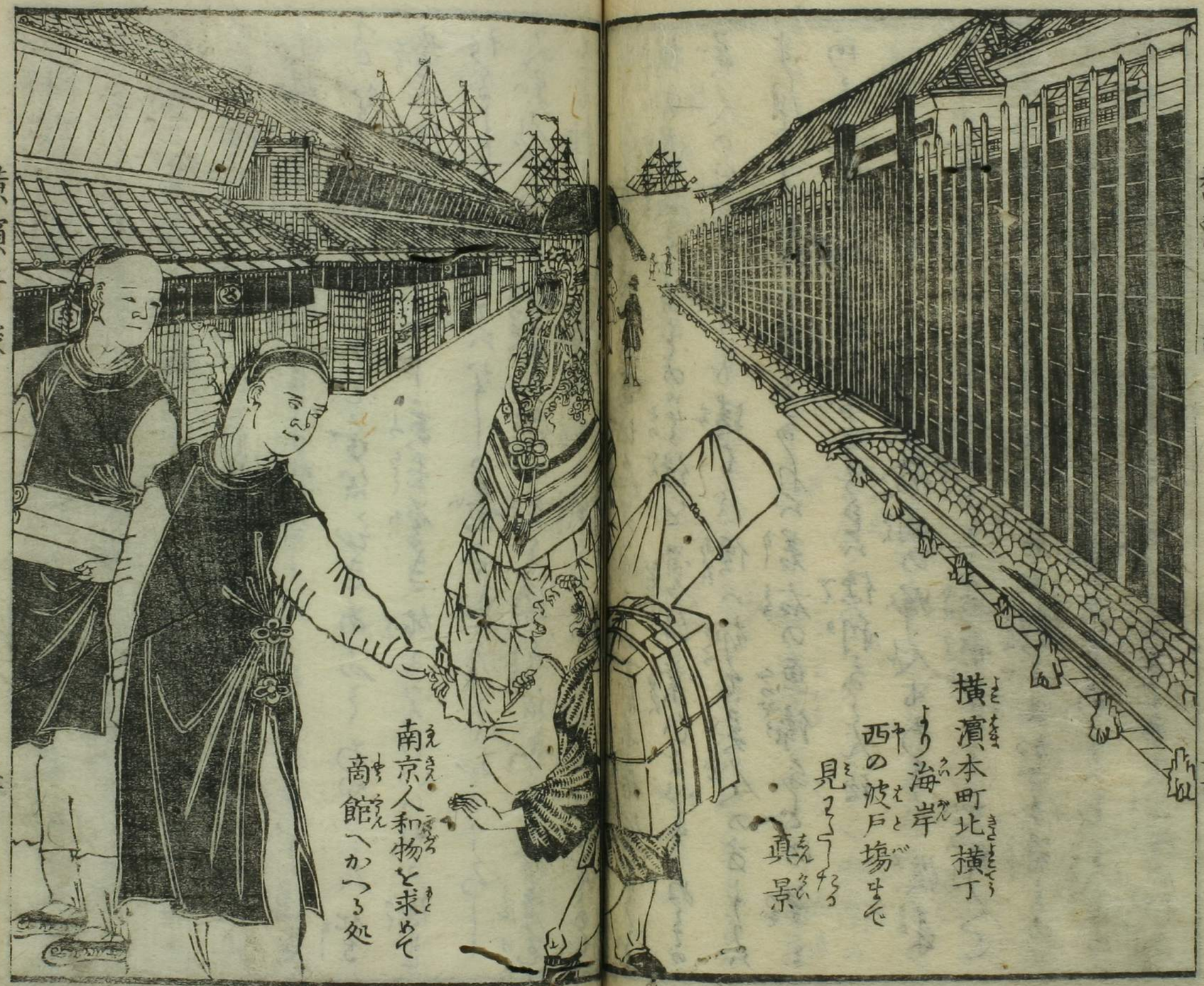
仮令ばかりなりとも生きながら一紋ゝ三人て色彩りの彼を
をつ一たるものの三尺位の紙のぬき身をもちて其の一紋ゝ
をもりまつこと上小三人の指揮をもつものあるゝ紙人形
一段一段三人の手足を考つかゝ運動を彼を組こそ
白きも毒なもあり以つきも紙片き紙地を拵附そ
ゝ色彩をるるもこりまつと彼を地へる物と補理あて
ゝ一案馬となる其日の彼い平日ゝ遠い品ゝの
流るやうなる器して三人ゝ人ゝ競馬といふを
団士の人形伸ゝ洋紙と百枚あゝひゝ百枚なゝ
彼ゝ彼勇とあゝ彼ゝ人を究理の

家のゝ人して我国のおゝく風俗類の優ゝ物の業ゝ
るゝ人ゝ多ゝ多ゝ人ゝ多ゝ人ゝ
美人を帯ゝ招月附と懐中ゝ
其の時計ハ丸さ美濃一寸ゝ
ゝ紙工密ゝ重ゝ
候ゝ西ゝ十両ゝ
ゝ丸たゝ日用便利の為
其の別限ゝ
彼ゝ自己ゝ附計を
面金ゝ

まことに仏門に第一なるべし　仏門に第一なるべしいつの
ころより開山をもて開法まこと仏利あるべしまこと宿善
いと一種の奇物ありとは人も勿論地獄極楽あるまで
也　殘一種せばせばしきもの形色合まてみしも遠ければ微
細なるギヤマン殘くまりて更に清らかなるあきあめのごとく
きれいなる人を移せば其人の容顔ことのごとくなりこと我国の
人と変せるの間に絵師に命じて我国像とつくり為扶
桑より孫に伝へ孫に伝へあどもとる事もいつれば絵師
師に真殘と聞ひあべいきかも遠ふくしてかるべし
價もギヤマンの大ゆえにありて此あるも此あるも

いつ頃の今はいまは南地無天通りあ丁目ふ五位もとる
横田蓮枝といつのこの絵師と覚ゆ業ひよりあ一ぬるの
呉人の仕事とおしも遠ければ價い郡て呉人のすよりも
よりは直ちに出るあるわべ若右の画像などの事
いつるべくこの絵師の命ぜべ仏利あるん絵

備赤彼國の婦人もあまこ渡来
いまー五ちうりべも細面ふくく麻布ある英婦人こ
あの耳へ金環珊瑚湖あど稚くよかざり簪ものと
もどもそのようそひもるべ英蘭ふてあること天女の
天衣しあやと絵る彼れ羽衣とるこめて三保の松原


横濱本町北横丁
海岸
西の波戸場にて
見る眞景
南京人和物を求めて
商館へかつる処

こ孫ゆゑ死風情あり　まこと馬よこ業なる男子おもあと
るまじくこゝあされども彼玉の風あるゆゑ嬰姫のごとく
我国の婦人こゝ十倍せりさるゆゑ
るゝ婦我ゆゑあきらかに夏樫とかくまりるおやけん
丈婦の中なる勝しきさるまこゝかくこゝ
るゆゑ道をゆくまこゝ紙ひきあゝあるゝ
誉のはこびのごとく実也ゝ
なるゝあるゝなしの意
又美人の小児生産の美ハ
なる制なし只義

母の乳ハ数せば牛の生乳あゝ書るゝ彼玉の国
俗ありそゝれゝ三寸ゆゝ彼玉の国
樹の枝く細縄と結びさげ
左右の縄を拭ませ
実ゝ勢ひあゝ三寸も又
廣るゝゝ後のかゝく花
日の移戦とせり例ゝ
ゝ生ハ大洋を家和ゝ
此頃ゝして馬ゆ家せ
自然ゝ婿なん縄て究理

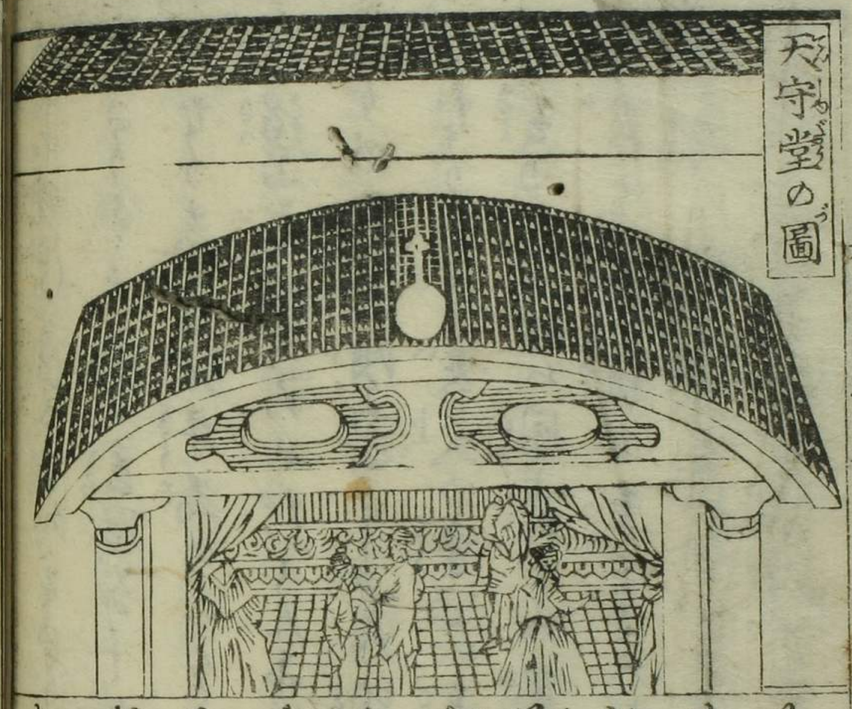
るのハ婦まぬとうやきふあのしきハ吳人の妾とありし女をさしてラシヤメンと唱るなり此名を負し元とハ吳人彼国より連てきりしラシヤメンとハ獣あり二ハ性素直ものしてよく人に到ものなり船中ハ水ドロスども下官ハ頻悩きぐしてこれ此獣をそこなており生ものありと雖此獣ハ吳人ハ牝きものの義よりしてラシヤメンといひあらハせしの理なり後よりハ牝よりコンカイ馬と止動の獣なりとも似たりとハ雖ハ吳国より大とも連てきりて関対ハ吳くよりたい傳ドルニ接ねきらあ十ねも出しく獣

それとぞきの大我国の大とちがひ絶その関をよ法きまたるぞひとく行ハまでも切ありそのを途中ハて求めたる不ものの低呂しき色あど紙唱くく所あるく此所関をの重きるのきるのぐしく第一道中ハあどあてきどきるるぞきるるぞうしるひるる紙のぞくく第五をこきて尋出さんとおのの新条呂ものくしどこの毎日食らのあどの名も我例ようり自垂ぐぐ喰きしの呂をりけてらハるきるの鞍子兄弟のぞくしく法ものく分ぞ鞍よきるハも似合ぐるるのあり且当地の人あど吳国の大をバカメといふるのと名ハ吳大とうてハカメくとようぞるのあをぞも

たまはりつゝ彼方ゆゑ新らく同下のことの紙頭まきくの
英語まゝ大の悪名まいつゝもぞ知まゝ南京人を
西洋人のまゝ人ゆゑあまゝ渡来ゝ居るあれども
元彼方を重人出現の地場ある西洋風怪風
類もあんと思ひゝ都て西洋人よりもさがゝき
のゝまゝ好まゝき不ゝ人と唱ふる美
人も多く渡来てなりまいアラビヤ国の生産あて
男女ともゝ也酷ゝ悪ゝたゝつていたゞ鳥のおゝく乱光
までも悪ゝ生涯愚昧ゆゑ、若の面為倉獣よりもゝ
その以前西洋人彼を牛馬同様ゝ面扱ひ奏賞ゝ

いゝ別ゝのひゝる処そのうゝちゝかゝまゝのゝ
きゝうゝたひゝ立服ゝ鞭ゝゝ同じく天地写
人なり表ゝ紙牛馬のおゝく奏賞ゝまゝるあんや
絵沼ふゝ面きゝわたんゝあい産もゝべゝとゝ者ゝれ
よりのち面倒ゝいゝてゝ皆通俗の表ゝ様ゝなりゝ
ゝなりまゝ美人の寺とゞ天寺堂と唱ふゝゞ美人
死去ゝる例ゝ同士のゝの集りゝく舞式らゝきゝるの紙
なのゝたゝ長い彼も平日ゝゝ毎ちゞひ絵の外立風あり
ゝ側ゝ墨清ゝも表ゞきゝのゞも翻訳き演地紙
ゝゞさくゝるその絵列ゝゝ生ゝ引ゝ等らゝ

天守堂の圖



る絵りて墓石くゆ紀藤城の
まこ堅めるものありそのよりて
綾地と巻まるの新度なり
墓石ハ元村場徒院といひの
ちんだいなり墓ぶるーハ英
ふく西洋人南京人とも彼
地くいり法事の器もかの
天守堂より集りて大同寺
なほ又ゾンダフくまた高稀と
ぶりく英人多ゆ

我國の規法淡義ゆうのを
彼寺より出かゝしきものの
食妻帯し俗と称するなり
ものづき猫ものを猫を
まと彼国の横ものハ
十字或合せて二十六字なりそれより新の字
蒙学のことせーなれども
ぐハ事学ばしたる英学ハ
学より志ある人ハ英と学ぶ
より同じ長崎英語或ハ和英
英商活抑という海国の

言葉と書る書の例

九番
十番 佛ブレイ
十一番
十二番 蘭ヒトイート
十三番 亜ベーカシメス
十四番 英アスフ子ル
十五番 亜アシビイル
十六番 英アサフ
十七番
十八番

廿九番
三十番 佛コンスタンシヨ
三十一番 英ロレロ
三十二番 佛ミニストルベリコウ
三十三番
三十四番
三十五番
三十六番
三十七番
三十八番

四十九番 亜ジョウジウ
五十番 英トーレル
五十一番 英メーテラント
五十二番 英デーセン
五十三番 佛ゴンヨー
五十四番 英ベール 亜ストイーズ
五十五番 英マキタヌル
五十六番 英ゴラルト
五十七番 亜フリーマン
五十八番 英マアサウ

六十九番 蘭フラース
七十番 蘭ハタゴヤカブタイメン
七十一番 英ロールバハル
七十二番
七十三番 亜シヨヤ
七十四番 英ユース
七十五番 英サスウン
七十六番 英メーン
七十七番 蘭ギンリマシタ
七十八番 英ロブシニ

十九番 英アラルハ
二十番 英ミニストルチーセン
廿一番 蘭パトー
廿二番 英
廿三番 英ナーエ
廿四番
廿五番 蘭リコー子ン
廿六番
廿七番 亜ウエ・リート
廿八番 英ベル

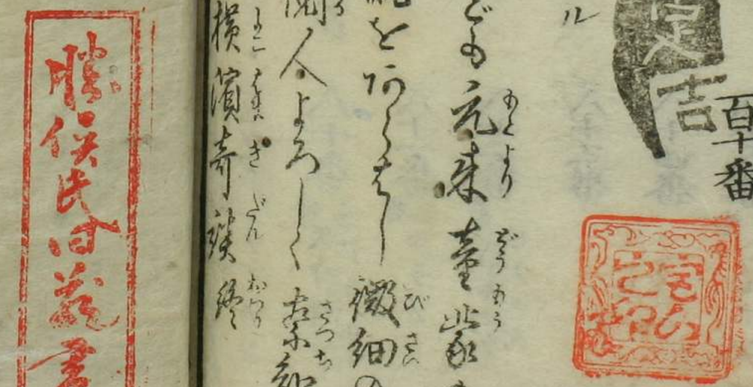
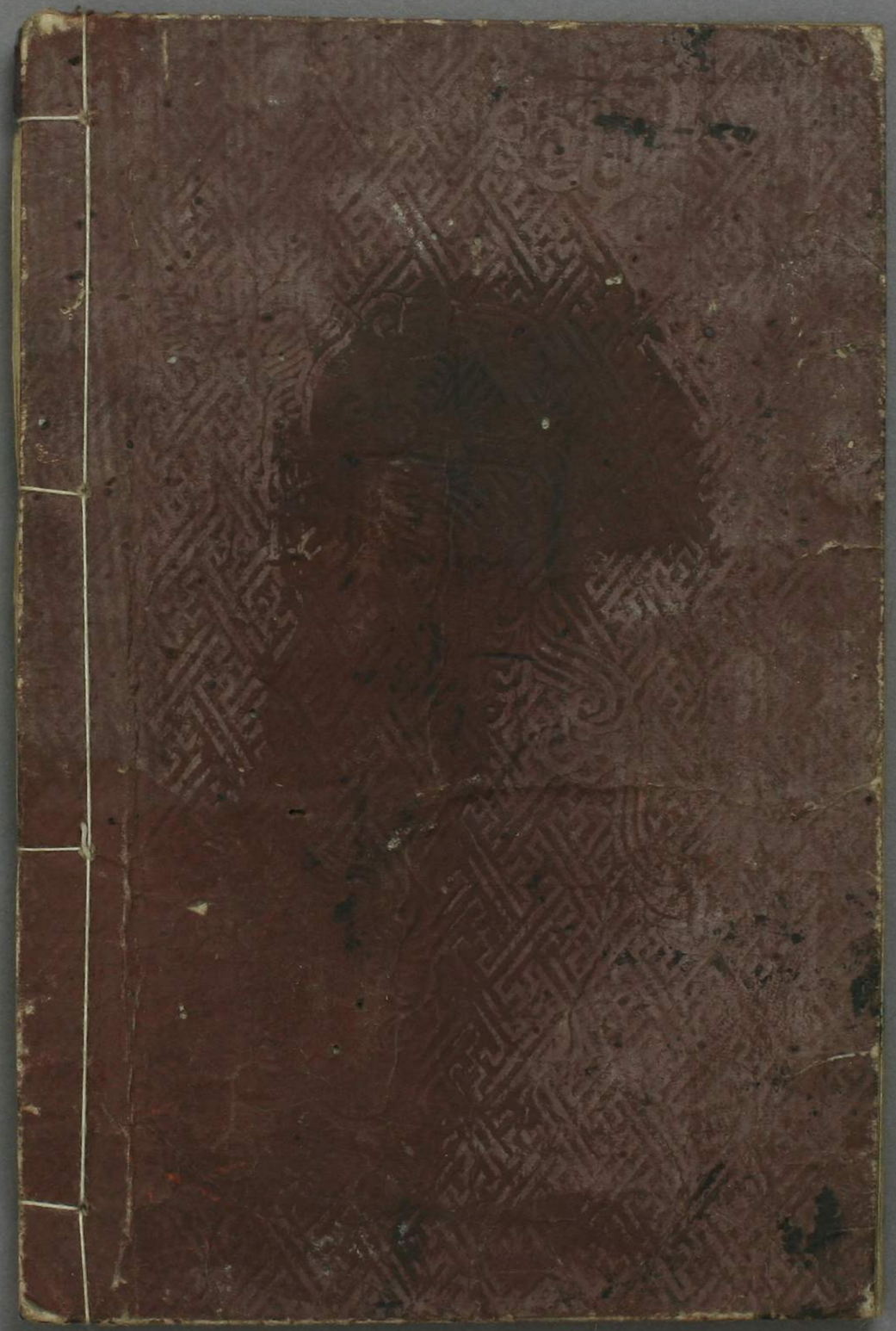
三十九番 亜ヘッポロン
四十番 亜ペーカ
四十一番 蘭バタケー
四十二番 英ヨグン
四十三番 亜シエルスライス
四十四番 蘭ベレゴースチル
四十五番
四十六番
四十七番
四十八番

五十九番 英ゼニキンス
六十番 佛ブッキマン
六十一番
六十二番
六十三番
六十四番
六十五番
六十六番
六十七番
六十八番 英メノシタゲニテンワイス

七十九番 亜ラブケン
八十番 佛天守堂ジラル
八十一番 英クラヲ
八十二番 英ジヤキマウセメンズ
八十三番
八十四番
八十五番 英ヘンルサン
八十六番 亜マコール
八十七番 英ッウジイウスデン
八十八番

八十九番 佛 ジヤクマン
九十番 英 ハベル
九十一番 英 アシビノル
九十二番 佛 クタヨー
九十三番
九十四番 亜 レマン
九十五番
九十六番
九十七番
九十八番
九十九番
百番
百一番 英 ベートリ
百二番 亜 トケイヤ フヲルコ
百三番
百四番
百五番
百六番 亜 ゴフル
百七番 蘭 ホフナカル
百八番
百九番
百十番

此(このわらい)冊(ど)事(ま)奇(き)説(せつ)をつゞる元来(ゝより)著(ちよ)述(じゝ)の
名(なを)ふ著(あらく)を書(しる)す概(ゝぞ)とは(ゝ)ゝ(ゝ)微細(びさい)の
事(ゝ)をいとりて(ゝ)寒(ゝ)く(ゝ)ゝ(ゝ)ぶきて紀(ゝ)ゝ閲(ゝ)人(ゝ)よろしく(ゝ)ゝ(ゝ)
——おもゝんるゝ紙(ゝ)幣(ゝ)よのゝ(ゝ)
港の義横濱奇談終



勝伯氏日義書